

第6章

神の諸教会の一つの部分として、神を礼拝し奉仕すること

「是の故に人々喜びて彼の言を受け、且つバプテズマせられたれば、その日凡そ三千の魂加へられたり」

(使徒行伝2章41節永井訳)

●教師の皆様、ここにこの授業のあなたの目的があります。

1.この授業のあなたの最初の目的は、神が認められるような聖書的バプテズマが何によって構成されるかという事につき、あなたの生徒を訓育することです。

2.あなたは又あなたの生徒に、バプテズマを通して主と公に結びつくべきである、ということを確認させる目的があります。

3.あなたの次の目的は、バプテズマによって生徒が主の諸教会のうちの一つの会員となりその教会で活発な参加者となるべきである、ということあなたの生徒に仕込むことです。

4.この授業のもう一つの目的は、神を真に礼拝するとはどういう事か、またなぜ生徒が神を礼拝すべきなのか、という点につき、あなたの生徒を訓育することです。

5.あなたの次の目的は、神への奉仕とは何なのか、またなぜ生徒が神に仕えるべきなのかという点につき、あなたの生徒を訓育することです。

6.この授業のあなたの最後の目的は、これら六つの授業で生徒に提示した真理の順序の、自然な進行に、あなたの生徒の注意を集中させることです。

●主題、意図と適用

主題

「神の諸教会の一つの部分として、神を礼拝し奉仕すること」

意図

おこないに関するあるやりかたと型が、神との交わりの続行とそのわざの有効性のために必要です。

適用

神を喜ばせ、神との交わりに留まる為に、正しいバプテズマ、教会員の身分、礼拝と奉仕

が必要であることを、生徒に理解させなさい。これらの活動が何であるか、いくぶん詳しく説明しなさい。

●第六課の提示

教師の皆様、これはあなたの最後の一打です。計算に入れて下さい。私はこの授業の始めにあたり、おさらいには大抵極めて僅かな時間しか使いません。(ほんの一分)最後にこの授業に組み込まれたやや機械的なおさらいがあります。それでその時まで私は自分のおさらいを、おおかた省きます。私は第六課をこんなふうに始めます。「先週私が交わりを説明し、私たちの天の父が私たちに御自身との交わりに留まることを、どんなに望んでおられるか説明したのを、あなたは覚えているでしょう。私たちが神との交わりを持っている時だけ、神は望みのままに、十分私たちの生活を祝福する事がおできになるのです。そして私たちが神との交わりを持っている時だけ、私たちの生活は本当に幸福で、実り豊かなものになるのです。私はまた先週、私たちが救われた後行おうとするすべての事柄は私たちが愛に動機づけられている故にそうすべきである、という点も説明しました。愛—それは神がその子等に望んでおられる唯一の動機です。」

「さて今晚(今日)私はあなたに、神がその子等に望んでおられるおこないの型を示すつもりです。」そしてその短いおさらいに加えて、私は直接第六課の私の最初の視点に突入します。

I 教師の皆様、第六課のあなたの最初の視点は、バプテスマをよく調べてみることです。

A あなたの生徒に、神がその子供に期待される最初のおこないはバプテスマであることを話して下さい。

1 既に示したように、図に「バプテスマ」を加え、その下に使徒2:41を書きなさい。使徒2:41からあなたの生徒に、この本文で神のみことばを聞き、受け入れた(これら六つの授業の間に、この家で起きた事と同じです)人々の最初の行為はバプテスマであった、ということをお教え下さい。この時点で、使徒16:33を図に加え、あなたの生徒に、ピリピの獄守の事例を示して下さい。「直ちに」という言葉は、すぐという意味です。

教師の皆様、愛と思いやりをもちながらも直接に、救われたあなたの生徒に、すぐバプテスマを受けるべきである、ということをお伝え下さい。これが神御自身に

よって確立された聖書的な順序です。

2 引き続き生徒に、バプテスマに於て生徒はキリストの死、埋葬と甦りを象徴的にあらわすことになる、と説明して下さい。生徒にキリストの死、埋葬と甦りこそ「福音」であり、それすなわち神のみわざで、それによって生徒は救われたのだ、という点を銘記させて下さい。図にロマ6：4-5を加え、既に示したように「福音の絵」と書きこみなさい。あなたの生徒に、水の中に下る時、生徒は実際に埋葬をあらわしている、ということをお告げ下さい。私たちは生きている人々を埋葬することはありませんから、埋葬は死を前提としています。葬式を見た誰もが、その事を知っています。ですからバプテスマの水の中に下ることで、あなたの生徒は死と埋葬を描くこととなります。そしてバプテスマの水から立ち上がった時、生徒は甦りを描く、あるいは象徴的にあらわすこととなります。ですからそのバプテスマにより生徒は絵の形で、キリストの死、埋葬、甦りを演じることとなります。生徒は舞台の役者となり、全世界に、自分が個人的にキリストの死、埋葬と甦りの益を受けたことを言うのです。生徒はその希望が、すべてイエス・キリストの福音のみわざに基づいていることを、公に宣言するのです。バプテスマはイエス・キリストの公的な弟子となる、生徒の道程なのです。バプテスマは人に永遠のいのちを与えるのではなく、生徒がそれを得ていることを実際公的に宣言するのです。そしてバプテスマは生徒がどこでそれを得たかをも語るのです。バプテスマが起こるまでは、神はその子供が公的な弟子となったとは考えられません。そうです。生徒は神の子ですが、隠れた子なのです。バプテスマというものは、他のいかなる象徴にもまさって人々をクリスチャンとして特色づけるのです。それが神の方法であり、あなたは自分の新しい改心者に、神の家族における新たな会員資格を公にするよう、勧めるべきです。それがバプテスマのおこなう事なのです。それは古い習慣が過ぎ去り、わたしが新しいいのちを得ていること、そしてその中を歩むつもりであることを言っているのです。

B さてあなたは自分の生徒に、神は本当のバプテスマ、あるいは神が真性と認められるバプテスマの構成要素として、何が必要だと言っておられるのかを教えるべきです。

1 あなたの生徒に、バプテスマが有効となるための神の御見解には（そして神の御見

解が実際重要な唯一のものです) 三つの基本的な要求が満たされなければならないとある点を伝えて下さい。生徒に、実際には少しも正当でない、バプテスマと呼ばれている活動がかなりあることを指摘して下さい。

ここで例を示して下さい。

法的に有効である為に、ある文書は公証人による証明がなされなければなりません。もしその文書を証明する人が、資格ある公証人でないなら、その文書は例え他のすべての細目が文字通り正確であっても、有効ではありません。合法であるためには、公証の仕事をする人がそうする為の正しい権威を持っていなければなりません。しかしたとえその公証人が資格ある者でも、ある文書は依然として法にかなわず、無効となり得るのです。例えば、ある与えられた日付における車の走行距離計の読みは、正しい公証がなされたとしても、無効であり得るのです。もし総マイル数が実際は75000なのに、50000マイルと言明されていたら、その正当に公証された文書は、それでも不正なものなのです。さらにもしその文書についての情報が絶対的に正確なもので、公証人が正当な資格を持った人であっても、その文書はいまだ無効になり得るのです。その公証人が正しい方法でそれを公証しなかった場合です。

この例では、ある文書が無効となり得る三つのやりかたが示されています。三つのうちのひとつが欠けても、その文書全体が無効となり得ます。正しくない権威、正しくない情報、正しくない方法です。同じように、これから私たちも見てゆきますが、バプテスマについて神が課される三つの要求があります。その三つのうちのひとつが欠けても、そのバプテスマは全く無効なものとなります。

2 有効な(聖書的な)バプテスマの為の第一の要求は、それを受ける人が個人的な救い主としてのイエス・キリストの信徒でなければならないことです。図に「信徒」と書き、使徒8:36-37を加えなさい。これらの節を読むか引用しなさい。それは、エチオピアの人がまず信徒でなければ、ピリポはその人にバプテスマを施す事ができなかった点を明確に示しています。論点は、人が正しいバプテスマを受ける前に、救われていなければならないことです。バプテスマが聖書で見られるところでは、それがいつも真理の順序なのです。そのことは、人が救われる前に受けた

と想定されるバプテスマはすべて勘定に入れられない、即ち無効である、という事です。それは幼児バプテスマが無価値であることを意味します。

バプテスマがイエス・キリストの死、埋葬と甦りを描くものであること、またそれを受ける人がキリストの死、埋葬と甦りへの信仰で個人的に益を受けたことを語るものであることを思い出して下さい。明らかに、それが起こるまでは、人はそのバプテスマで、まことのうちにそれを言う事はできません。救われる前に人がバプテスマに入ってゆくことは、偽りの行動です。キリストの信徒だと言いますが、事実は違うのです。かくて神の御見解では、そうしたバプテスマは無効です。神はそのような人々を、全然バプテスマを受けなかったとみなされます。

3 有効なバプテスマの為の第二の要求は、それが浸礼の方法でなされなければならないことです。図に「浸礼」と書いて、使徒8：38-39を加えなさい。あなたの生徒に、方法に関し、再びエチオピアの人とピリポの事例を考えさせなさい。明らかに、二人は水に下り、水から上がってきました。「バプタイズ（※バプテゾウに相当する英語）」という言葉は液体で完全に覆うという意味で、本文ではそれは水となっています。水による浸礼の方法は、死、埋葬と甦りをよく描きます。そしてそれこそバプテスマが描く為に企画されていることなのです。キリストの福音に精通している人なら誰でも、浸礼を見れば、その絵を獲得する事ができます。けれども、水をまいたり、注いだり、布で湿らせたりして、キリストの死、埋葬と甦りを描くことはできません。

ですから神に関する限り、そうした他の型は勘定に入らないのです。そうしたもののだけを終えた人々は、神によりバプテスマを受けた者と認められないのです。それが起きた時実際ある人は信徒であったかもしれませんが、聖書の方法の違反は、すべてのことを無効にするのです。

4 有効なバプテスマの為の第三の要求は、それが正しい権威によってとりおこなわれなければならないことです。教会だけがバプテスマを施す権威を持ちます。マタイ28：16, 19-20を加え、また図に示したように「権威」を加えなさい。バプテスマを施す権威は個人には与えられていませんでした。それは集会的なイエスの教会に対して与えられました。コリント前12：28はイエスの教会の最初の会

員が使徒たちであったと言っています。そしてマタイ28:16は、これらの人々こそマタイ28:19-20でバプテスマを施す権威を与えられた者であることを示しています。

イエスはマタイ16:18で、その地上での御職務の間に、ご自身の教会を始められました。それはほぼ2000年前のことでした。それ以来歴史は、イエスがエルサレムで建てられたのと同様の諸教会が、引き続き営まれてきたことを確認しています。マタイ16:18から今日まで、地上のある地域また別の地域に、イエスがエルサレムで建てられたのと同様の諸教会が存在していなかった時期は、一度もありません。これらのものがバプテスマを施す権威を持っているのであり、他のいかなるものもそれを持っていません。

その系統を同種のもので辿り、ずっと遡ってエルサレムにあった教会までゆきつける型の教会は、バプテスト教会です。他のすべてのものは断たれています。カトリックは約250年たってからのもの、ルター派教会は1500年くらいたってからのものです。そしてそれからメソジスト、キリストの教会、無教派、ペンテコステなどが続き、さらに他のほとんどが今から300年以内のものです。人をその創立者として始めた教会（たとえばマルチン・ルター、ジョン・カルヴァン、アレキサンダー・キャンベル）で、イエス・キリストが建てられ、バプテスマを施す権威を与えられた類の教会から250年、1500年あるいは1800年も後のものが人にバプテスマを施す権威をもちえないことは、外見上でも明らかです。それがこれらのうちのどの一つであろうと、そこでとりおこなわれたバプテスマが無効である理由で、それはまた、私たちがそうしたバプテスマを受け入れないのはなぜか、ということをも説明しています。主の諸教会の一つによってとりおこなわれなければ、いかなるバプテスマも無効です。それは分離したり、人をそのかしらとして、のちのある時点で生じたような、異なる類の教会とは違うのです。そうしたある組織によりバプテスマを受けた人は誰でも、聖書的なバプテスマを受ける必要があります。たとえその人がその時救われており、浸礼を受けていたとしてもです。そうした人が正しい権威、正しい方法で、信徒としてバプテスマを受けるまでは、神はそのバプテスマを有効なものとはみなされません。

Ⅱ さてあなたの生徒に、バプテスマを受けたら、主の諸教会の一つの会員となることを教えて下さい。

A 神ご自身が人をその教会に加えられるのは、バプテスマの時点です。

1 図に「教会」を加えて、既に示したように、その下に使徒2：41, 47を書きなさい。

2 これらの聖書箇所からあなたは容易に、神が選んで人々をその教会に加えられる時点がバプテスマの時であることを、自分の生徒に示せます。神は人々が神を救い主として信じた時、彼らを神の家族に加えられ、彼らがバプテスマにおいて神と結びつく時、彼らをその教会に加えられるのです。

B 主の諸教会の一つの会員となり、積極的な参加者となる神の子等には、非常に多くの恵みがあります。

1 教師の皆様、ここで窮地に落ちることのないよう気をつけて下さい。主の教会で活動的になる為に、言うべきよいことが多くあります。もしあなたがそれをすべて挙げ、あなたの生徒にすべての参照箇所をめぐらせようとすれば、明日までここにいることになるでしょう。ここでのあなたの主要な目的は、あなたの生徒に、神の御計画では、教会がどれほど役に立ち、大切なものであるかを売り込むことです。あなたはここで生徒を教会に入れる為十分なことをしたいと思います。なぜならそこで生徒を成熟へと仕向けられるからです。もし生徒が教会で活発でなければ、神の子としては、実を結ばず、霊的に不毛のままずっと悩んでしまうでしょう。

2 私は自分の生徒に、神は天でぶらぶらし、私たちが日曜日には何かをするのと同じように教会を考え出されたのではないと、切りだします。神は教会を必要とされません。ちょうど神が聖書を必要とされないようにです。教会は聖書と同様、私たちがそれを必要とするから与えられたのです。神は私たちの必要を知っておられますし、私たちが正しい方向へ向けておくのに何が必要なのかも知っておられます。そして教会は神の子が皆必要としているものの一つです。教会で得られる説教が必要です。教会での説教や授業で得る神のみことばがなければ、世は神の子の目を正道から降ろし、その人は人生で迷い始めます。それを知る前から、その人は世の態度や哲学を取り入れているでしょう。また神の子は教会を通しての、同じ心を持った

人々との交わりが必要です。神の子等は神の子等との交わりが必要なのです。救われていない人々とのみ多くの時間を持てば、あなたを間違った方向へ感化する事ができます。また神の子は主の教会の職務の一端をになう必要があります。たくさん
の職務を通し、教会はまだ救われていない人々、あるいは救われているけれども、あと戻りしている人々に接触しているのです。主の教会の一部として、あなたの生徒は全世界にわたる伝道の職務の一部となりえるのです。神の人々が一緒になり、祈り、賛美、施し、説教と主の晩餐で神を崇める教会の礼拝で広がる、霊的な高揚と靈感の伝わる雰囲気複製する方法はありません。それをテレビで見ても、同じ効果を生みだしません。キリストはその教会のかしらです。そして教会はそのからだと呼ばれます。キリストは教会と出会い、地上でのそのみわざの遂行の仕事を、集合体としての教会に与えておられます。教会については言うべきことがいっぱいあります。それなくしては、あなたの生徒は自分自身をごまかすことになるでしょう。

- C 神の子はすべて主の諸教会の一つで、活発にその一端を担うよう命じられています。
- 1 エペソ 3 : 21 (図に加える) は、神に帰せられるすべての栄光が、その教会を通してであることを神は望んでおられる、と言っています。それは、もしあなたが神のためにあなたのわざを価値あらしめんとするなら、それを教会を通してやらなければならない、ということです。
- 2 図にヘブル 10 : 24 - 25 を加え、あなたの生徒にそれを見せなさい。それは、神の子等が主の教会の定期的な集まりを棄てるべきではない、という事を明確に言っています。

- III 次にあなたの生徒に、神は生徒に神を「礼拝する」ことを望んでおられる、という点を教えて下さい。(図に「礼拝」を加えて下さい)
- A 主の教会の一部として私たちがすることの一つは、神を礼拝することである、と説明して下さい。

- 1 私たちはそれを「賛美」(図に加えなさい)を通してしますが、それは神に対する私たちの心の感情と礼賛を表します。図に加える必要はありませんが、参照箇所はコロサイ 3 : 16 です。

2 私たちは教会で「施し」をし（図に加えなさい）礼拝します。施しは神が所有者で
私たちはただ物質的なものの管理者にすぎないことを示します。参照はコリント前
16：2です。

3 私たちは教会で「祈り」をし（図に加えなさい）礼拝します。祈りは神から求める
こと、そして私たちが神に服し、神を必要としている点を認めることです。参照は
エペソ6：18です。

4 私たちは教会で「説教」をし（図に加えなさい）礼拝します。説教は真理のみこと
ばを示す、神の第一の方法です。参照はコリント前1：21です。

5 私たちはまた教会で「主の晩餐」をもって（図に加えなさい）神を礼拝します。主
の晩餐は、すべて私たちが持っているもの、また私たちが存在していることが、そ
の体と血を私たちの為に与えて下さったキリストの故である点を認めることです。
参照はコリント前11：23-33です。

教師の皆様、あなたはこれらについて時間の許す限り、詳しく述べることができ
ます。そしてあなたは与えられた状況での必要を感じとります。あなたがそれらを
非常に詳しくはカバーできないことは確かです。あなたがここであまりに詳しく
たり、専門的になりすぎないように注意して下さい。あなたの生徒が成長するにつれ
て、教会の教えの職務を通し、このことをもっと得るようになるでしょう。一時間
の授業が六つでは、時間の制限があります。

B 次にあなたの生徒に、神を真に礼拝する為の二つの基本的な要求があることを教えて
下さい。（図にヨハネ4：23-24を加えて、あなたの生徒にそこをめぐらせな
さい）

1 神は人々がご自身を「霊をもって」礼拝するよう求めておられます。それは礼拝に
おける心構えと動機が正しくなければならないことを意味します。私たちが「愛」
についてなした学習の段落と、それが、神のみわざにつき私たちがおこなうすべて
のことの為の、唯一の真の動機である、ということをお出し下さい。私たちの
心がそこにいる時、単なる礼拝の挙動に進むことは、むだな礼拝となります。心が
へりくだって、神と調子が合うのでない時は、最上の献金、最も美しい賛美、最も
すばらしい祈りを捧げても、むだです。

2 神はまた人々が「真をもって」ご自身を礼拝することを求めておられます。私たちの神への礼拝は、誠実さ、熱心さとよき霊性を持っているだけでは十分ではありません。私たちは単にしたいと思うことをし、神からその祝福を得ようとする自由はありません。神はある事柄をある方法でしよう命じられました。例えば、礼拝に集まる時なら、湖のほとりにある私たちの家庭での礼拝を好んでそれを休み、神が私たちの礼拝を受け入れて下さると期待することはできません。私たちが賛美で礼拝する時は、私たちの賛美が真実を語るものでなければなりません。施す正しい額があり、それを施す正しい場所があるのです。あなたの生徒に、主の教会の指導の責務の一つは、人々に真のうちにあっていかに正しく神を礼拝するか、という点を教えることだ、と教えて下さい。

IV さてあなたの生徒に、神はまたその子等がご自身に「仕える」ことを望んでおられる、と語って下さい。(図に「仕える」を加えて下さい)

A あなたの生徒に、奉仕を礼拝と混同しないよう注意するように、と伝えて下さい。

1 忠実に教会へ行き礼拝しているから、神に「仕えている」のだと考える人々が多くいます。礼拝は神を礼賛、賛美することです。奉仕はキリストのご目標を高め、またキリストに誉れと栄光をもたらすような諸活動への積極的な従事です。ある人は教会の礼拝期日に忠実で大変結構なことですが、神には決して仕えていません。礼拝は奉仕を促しますが、それらは一つで同じこと、ではありません。

2 一般的な意味では、奉仕は神の礼拝の前と後で人がおこなうことです。そうです、教会には奉仕の役割があります。人は執事として、教師として仕え、またはバスの職務、印刷の職務、または財務で仕えることができます。事実よい教会では、仕える場が非常に多くあります。

しかし教会の奉仕は、より大きな奉仕の一部であるにすぎません。クリスチャンであるということは、日曜日の問題だけというのではありません。私たちの生活は毎日どこに居ようと、神をよく代表し仕えるべきなのです。私たちは毎日すばらしい従業員であるべきです。私たちがそれを理解していようとまいと、毎日仕事で神を代表し、神に仕えて(あるいは仕えていない)いるのです。私たちはよき友、よき親、そしてよき市民となるべきです。ことばとおこないでイエスの為に立つべ

きあらゆる機会^{きあひ}は、イエスに仕える機会^{つぎ きあひ}です。人々は毎日私たちの生活^{ひとびと まいにちわたしたち}に入^{せいざつ}ってき
ます。そして神は私たちの彼ら^{かみ わたし}に対する応答^{かみ たい}を個人的なものとみなされます。ちよ
うど私たちが彼らを扱^{わたし され}ったやりかたで、神も扱^{かみ あつぎ}ったのだというように。教師の皆様^{きょうし みなさま}
マタイ25：31-40を図^ずに書^かいて、それをあなたの生徒^{せいと}に読^よんであげなさい。
それはまことにまじめな事柄^{ことづから とく}です。特に40節^{せつ}に注^{ちゅう}目^{もく}して下^{くだ}さい。イエスは私たち
のまわり^{まわり}にいる人々^{ひとびと}への私^{わたし}たちの扱^{あつぎ}いを、ご自身^{ご自身}への個人^{こじん}的な扱^{あつぎ}いとみなされるの
です。そうです、あなたの生徒^{せいと}に神に仕^{かみ}えるよう教^{つぎ}えなさい。それも毎日^{まいにち}です。

B 教師の皆様^{きょうし みなさま}、あなたの生徒^{せいと}に、救^{すく}われたからには、神に仕^{かみ}えることはその生涯^{しょうがい}の仕^し事^{ごと}
となるべきだ、と教^かえて下^{くだ}さい。

1 図^ずにエペソ2：10を加^{くわ}えて、それを読^よむか引^{いん}用^{よう}しなさい。あなたの生徒^{せいと}に、神に
仕^{かみ}えてよきわざをなす機会^{きあひ}の為^{ため}に、いつも注^{ちゅう}意^いしているべきだ、と教^かえて下^{くだ}さい。

2 この視^{してん}点^{てん}を概^{がい}括^{くわつ}して述^{じゆ}べ^りるよ^よい方^{ほう}法^{ぽう}は、そしてそれは基本^{きほん}的にこれら^{これら}の授^{じゅ}業^{ぎやう}の新^{あら}し
い素^そ材^{ざい}の終^{しゅう}結^{けつ}となるのですが、あなたがや^やっていることをそのとおりに、あなたの
生徒^{せいと}にや^やってもら^{もら}うよう勸^{すす}めること^{こと}です。生徒^{せいと}を促^{うなが}して訓^{くん}練^{れん}の過^か程^{てい}に入^いれ、この素^そ
材^{ざい}を学^{まな}ばせ、あなたが生徒^{せいと}に教^かえたのと同^{おな}じよ^ように、他人^{たにん}を教^かえ始^{はじ}められるよ^ように
するのです。外^あではそれを必要^{ひつよう}としている人々^{ひとびと}が多^{おほ}くいること、あなたがたぶん個^こ
人^{じん}的に教^かえられるのよ^より、も^{おほ}つと^{おほ}つと多^{おほ}くの人^{ひと}がいてることを生徒^{せいと}に銘^{めい}記^きさせな^さ
さい。この仕^し事^{ごと}は助^{たす}けがいら^{いら}ます。も^{おほ}つと教^{きょうし}師^しが必^{ひつ}要^{よう}です。事^じ実^{じつ}疑^ぎいもな^なく、あなた
には決^{けつ}して教^かえてもら^{もら}いたくないけれど、生徒^{せいと}なら教^かえてもら^{もら}おうとい^いう人々^{ひとびと}が
いることを、生徒^{せいと}に示^{しめ}して下^{くだ}さい。ここはまた生徒^{せいと}に、これら^{これら}の授^{じゅ}業^{ぎやう}を始^{はじ}められるよ^よ
うな人^{ひと}を誰^{たれ}か知^しっているかどう^{どう}か尋^{たず}ねる、よ^よい時^{とき}です。生徒^{せいと}に、あなたが喜^{よろこ}んでそ
の人々^{ひとびと}に教^かえたいと伝^{つた}えて下^{くだ}さい。こうすればあなたは教^かえる為^{ため}の^{あら}新^{あら}たな期^き待^{たい}をも
てるよ^ようになるでし^しょう。また会^{かい}合^{ごう}を開^{ひら}いて、それによ^よりあなたの生徒^{せいと}をこれ^{これ}から
教師^{きょうし}になるよ^よう鍛^あえ始^{はじ}めること^{こと}もでき^{でき}ます。

V さてあなたの生徒^{せいと}に、授^{じゅ}業^{ぎやう}に含^{ふく}まれた真^{しん}理^りの発^{はつ}展^{てん}的^{てき}な性^{せい}質^{しつ}を描^{えい}きなが^{なが}ら、六^むつ^つの授^{じゅ}業^{ぎやう}を
終^おえたいと告^つげ^くて下^{くだ}さい。

教師の皆様^{きょうし みなさま}、この章^{しょう}の終^{しゅう}わり^りの図^ず表^{ひょう}の、大^{おほ}きな矢^やを見^みて下^{くだ}さい。矢^やの先^{せん}端^{たん}（尾^おではな
く）から始^{はじ}めて、それをあなたの図^ず表^{ひょう}に書^かきなさい。あなたは自分^{じぶん}が教^かえた素^そ材^{ざい}の進^{しん}行^{こう}
<107>

とは逆の順序で、紙面に矢を書いてゆくのです。こうすれば、六つの授業に関するあなたの包括的なおさらいとして役に立つでしょう。

あなたは図に矢を書きながら、それをこんな風に説明して下さい。神の子はすべて神に「仕える」べきです。(あなたの矢の先端を書きなさい)しかし神の子であっても、まず神を「礼拝する」のでなければ、誰も神に仕えることができず、長くそれを続けることもできません。(あなたの矢がらを「礼拝」まで延長しなさい)でも主の教会の一部でなければ、誰も神を礼拝する資格がありません。なぜなら礼拝は教会ですべきだからです。(矢がらは今「教会」を通過します)しかしバプテスマを受けるまでは、誰も主の教会の一部ではありません。(矢がらは今「バプテスマ」を通ります)でもバプテスマを受ける人は誰でも、神を愛し、バプテスマを受けたいからという理由で、そうすべきなのです。それを受けなければならない、という理由ではありません。(矢がらは今「愛」を通過します)しかし神と交わりを持ちながら歩むことを知らなければ、誰もこのうちのいずれであっても、うまくやれないでしょう。(矢がらは今上に上がり「交わり」を通ります)でもまず神との関係を確立するまでは、神と交わりを持つ方法がありません。(矢がらは今「関係」まで進みます)しかし神との関係に入る人はみなイエス・キリストの十字架を経由してこなければなりません。(矢がらは今十字架を通過します)でも自分自身を失せた、希望のない罪人であって、自分自身を救うことはできない、という点を認めるまでは、誰もイエス・キリストまで来ません。(この時点で矢がらを下方にのぼし、ばつ印をつけたよいおこないの部分を通させ、上にあげて、既に示したように左側の欄の最上部までゆきなさい。矢の最後尾の羽を加えなさい)ですからあなたは自分の生徒に、神の真理のうちに含まれる発展的な順序がある、とすることができます。そしてそれと共に、あなたは生徒をもう一度促して、それを他人と分かち計画の一端をになうよう勧めることができます。

●あなたが去る時に。

1 あなたの生徒に、これらの貴重な諸真理を分かち機会を与えてくれたことを感謝して下さい。

2 生徒に、いつか教会と一緒に仕事をすることを楽しみにしている、と告げて下さい。

生徒に、主にあって成長する手助けとして、自分にできることなら何でもすると断言

してくだ下さい。

3あなたが去るさ前に、あなたに解けとそうな疑問ぎもんがあるかどうか尋ねたずなさい。

4祈りいのを導きみちび、これらの諸真理しよしんりを分かつことができた恵みめぐみに対し、神かみに感謝かんしあし、さしだ
された労苦らうくとこの家庭かていに対する神かみの祝福しよくふくを求めなさい。

5立ち上がり、心こころをこめてさよならを言い、玄関いびんかんまで進すすみなさい。

14:11-12 ロマ2:2
ヨハネ17:17

神

サムエル前16:7

- 1 構成
 - 2 預言
 - 3 聖書の主張
- ペテロ後1:21
テモテ後3:16
コリント前2:9-10

福音

- ロマ1:16
コリント前15:1-4
- 1 死
 - 2 埋葬
 - 3 甦り

新生

- ヨハネ3:1-14
ヨハネ第一5:1



無関係

- 1 失せたる者
ルカ19:10
- 2 罪に定められる
ヨハネ3:18
- 3 罪の赦されていない
使徒13:38-39
- 4 不義
ロマ1:18
- 5 咎と罪とにて死にたる者
エペソ2:1
- 6 永遠の火の池
黙示録20:14-15

- 創3:21
創22:1-14
出12
イザヤ53:7
ヘブル9:12
ヘブル10:1
ガ3:24-26
ヨハネ1:29
使徒8:32-35
ペ前3:18
ペ前2:24
ロマ5:6-8
ヘ10:10-14
ヨハネ19:30

信じる

- 使徒16:30-31
ヨハネ5:24
ヨハネ3:15-18

誕生

関係

- 1 救われた者
エペソ2:8-9
- 2 義とされる
ロマ5:1
- 3 罪の赦された
エペソ1:7
- 4 義
ロマ3:22
- 5 永遠の生命
ヨハネ5:24
- 6 天国
ヨハネ14:1-3

おこない

- ヨハネ10:10
コロサイ2:6
- ヨハネ第一1
罪:イザヤ59:1-2
懲罰:ヘブル12:5-11
告白:ヨハネ第一1:9
ヘブル4:14-16

100パーセントよいおこない

愛 バプテスマ 教会 礼拝 奉仕

愛 バプテスマ 教会 礼拝 奉仕

- エペソ2:8-9
テトス3:5
イザヤ64:6
ロマ4:5

- 1 折り
- 2 賛美
- 3 施し
- 4 宣教
- 5 主の晩餐

- | | | | | |
|---------|--------|----------|------|--------|
| ペ前4:8 | 使2:41 | 使2:41, 1 | 賛美 | マタイ |
| コ後5:14 | 使16:33 | 47 | 2 施し | 25:31- |
| コ前13:1 | 「福音の | エペソ | 3 折り | 40 |
| -3 | 絵」 | 3:21 | 4 宣教 | エペソ |
| コ前10:31 | ロマ6:4- | ヘブル | 5 主の | 2:10 |
| | 5 | 10:24- | 晩餐 | |
| | 1 信徒 | 25 | ヨハネ | |
| | 使8:36 | | :23 | |
| | -37 | | -24 | |
| | 2 浸礼 | | | |
| | 使8:38 | | | |
| | -39 | | | |
| | 3 権威 | | | |
| | マタイ | | | |
| | 28:16, | | | |
| | 19-20 | | | |

第六課の為の学習紙と授業計画

主題

「神の諸教会の一つの部分として、神を礼拝し奉仕すること」

意図

おこないに関するあるやりかたと型が、神との交わりの続行とそのわざの有効性のために必要です。

適用

神を喜ばせ、神との交わりに留まる為に、正しいバプテスマ、教会員の身分、礼拝と奉仕が必要であることを、生徒に理解させなさい。これらの活動が何であるか、いくぶん詳しく説明しなさい。

暗記すべき聖書の諸節

使徒2：41 「是の故に人々喜びて彼の**ことば**を受け、且つバプテスマせられたれば、その日およそ三千の魂加へられたり」 (永井訳)

エペソ3：21 「**栄光**世々限りなく教会によりて、又**キリスト・イエス**によりてあらんことを、アーメン」

ヘブル10：24-25 「互に**相顧み愛と善き業**とを励まし、**集会**をやむる或人の**習慣**の如くせず、互に**勧め合ひ**、かの日の**いよいよ近づく**を見て、**すます斯の如くすべし**」

ヨハネ4：23-24 「されど**真の礼拝者**の、**霊と真と**をもて父を拝する時きたらん、今**すでに**来れり。父は**斯のごとく**拝する者を求めたまふ。神は**霊なれば**、拝する者も**霊と真と**をもて拝すべきなり」

エペソ2：10 「我らは神に造られたる者にして、神の**預じめ備へ給ひし善き業**に歩むべく、**キリスト・イエス**の中に造られたるなり」

I パプテスマをよく調べること

A 神の子の最初のおこない。使徒 2 : 41, 16 : 33, ロマ 6 : 4-5。

B 真の、有効なパプテスマの為の、神の三つの要求。

例：法律文書の公証化。

1 志願者は信徒でなければなりません。使徒 8 : 36-37。

2 方法は浸礼でなければなりません。使徒 8 : 38-39。

3 パプテスマはイエス・キリストが建てられたのと同じような教会の権威によらなければなりません。マタイ 28 : 16, 19-20, コリント前 12 : 28, マタイ 16 : 18。

過渡的な考え：正しい権威により、正しい方法で、信徒として。

II 主の諸教会の一つの会員であること。

A 主はパプテスマの時点で、人を教会に加えられます。使徒 2 : 41, 47。

B 神の教会の会員で参加する神の子等への大きな恵み。

C 私たちは教会の活動的な部分となるよう、神から命じられています。エペソ 3 : 21
ヘブル 10 : 24-25。

過渡的な考え：定期的な集まりを棄ててはいけません。

III 神はその子等がご自身を礼拝することを望んでおられます。

A 私たちは教会の一部として、(1) 賛美 (2) 施し (3) 祈り (4) 説教 (5) 主の
晩餐により、礼拝します。

B 真の礼拝の為の二つの基本的な要求。ヨハネ 4 : 23-24。

1 「霊と」 2 「真をもって」

過渡的な考え：教会の指導者は信徒に真をもって礼拝する方法を教える責務があります。

IV 神はその子等がご自身に「仕える」ことを望んでおられます。

A 奉仕を礼拝と混同すべきではありません。

1 礼拝は奉仕ではありません。

2神は私たちの他人への扱いを、ご自身に対する個人的な扱いと取られます。マタイ

25:31-40。

B神に仕えることは神の子等の一生の仕事であるべきです。エペソ2:10。

Vこれらの諸真理の発展的な性質。

A各真理を他のものと繋げる為、逆の順序で矢を描くこと。

B結論的な考え：キリストの為に他人に接触することで、あなたがしているのと同じ仕事
をになう者となるよう、あなたの生徒に勧めをすること。

第七章

せいしょ きほんてきしよしんり
聖書の基本的諸真理のトレーニング

だい
(第一レベルのトレーニングの最初の会合とする説明)

I 聖書の基本的諸真理とは何かの十分な説明をもって始めなさい。

A それは一時間の聖書の授業を六つ、個人、二人、あるいは家族（大抵はそれまで）に一回一授業で六週間教える計画の事です。

1 授業は教える為にたてられた時、あなたと生徒で互いにあらかじめ決めた時間で教えられます。

2 授業は通常生徒の家のキッチンテーブルで教えられます。

B 授業はなりゆきまかせでなく、体系的なものです。ある視点をもって始め、定まった順序構造の中で、あらかじめ決めた視点に向かって発展してゆきます。

1 それはどちらかといえば、ざっくりばらんな状態で教えられ、質問や討論の余地があります。でも概して教えは、教師が定まった方向へ導く、形式ばらない説教の形になります。

2 あなたが教える時、教える事を例解し、定義する図を展開してゆきます。

C 六つの聖書の授業は二つの部分から成ります。

1 最初の四つの授業は救いの計画を体系的に扱い、生徒はキリストにおける神の偉大なみわざが自分の為である事を、かなりよく理解出来るようになります。これらの授業はまた、もし生徒がまだ信徒でなかったら、その生徒をキリストに運ぶためにも企画されています。

2 最後の二つの授業は、弟子化を体系的に扱います。それらは信徒の生活に何が起り、またそれはなぜかを示します。生徒を成長と成熟への道にすすめる為に企画されています。

II 次に、トレーニングは各生徒に聖書の基本的諸真理の授業を立て、教える為の備えとして企画されている事を説明して下さい。

A 各生徒は聖書の基本的諸真理の六つの授業のそれぞれの内容を、注意深く教えられます。

1 各授業につき全てが書かれている原稿が、各々の生徒の為に備えられます。

2 トレーニングの間に、口頭で逐一の説明がなされます。

3 概略の形を容易に辿れるように、授業計画の要約が備えられ、各生徒が一度その授業を終え、他人を教える時、自分自身の使用の為に供されます。

B トレーニングの過程は生徒の聴取という条件の下で、素材の多岐にわたる、実際的な教えを含み、生徒がやがてはその素材の教えに確信を抱き始めるようになる、ということ を説明して下さい。

1 生徒は教室でただそのやりかたを教わるだけでなく、その後送り出されて、自分でそれをする事になる、と説明して下さい。

2 これに対し、各生徒は最初別の生徒と組んで、その人と共に授業の教えを練習する事になります。それは九週間に互る素材を学ぶ教室での時期を経てからの事です。

それから別の生徒との練習段階が終わったあと、各生徒は経験豊かな先生と対になり、生徒は実際の現場で六つの授業の教えを観察する事になります。それからその先生は、生徒が実際現場で六つの授業の過程を教えるのを観察します。

それを経てのみ、生徒が家庭聖書研究ミニストリーの役として独力で行う教師となる為の考慮がなされます。

Ⅲ 次に、トレーニングが終了したら、生徒に何が期待されているかを説明して下さい。

A トレーニングの終了後、各生徒は教会の家庭聖書研究ミニストリーの活動的な役をこなう者となる事が期待されます。

1 私たちは人々にこれらの授業の教え方を学んでもらう為だけで鍛えて、あとはそれと無関係にしてしまう、という事には関心がない事を説明して下さい。

2 トレーニングの終了後、各人はいつでも一つ家庭聖書研究課程を発展させてゆく事が期待されます。その意味は、人が一つの課程を発展させるか、積極的に一つ課程を設定するよう努めるだろうという事です。

私たちの家庭聖書研究ミニストリーの目標は、各教師が一年に少なくとも六課程を教える事です、それは三十六週かかるでしょう。一年の残りの十六週は休暇や病気そして新しい課程を摸索し、設定する時間を見越したものとなります。

教師は一年に六課程以上を設定し教える事も望めますし、それは喜ばしい事です。

しかしその役職にある教師なら、誰も一年に六課程以下を教えるという事があってはいけません。

3 通常教師は聖書の基本的諸真理の授業を、火曜日夜七時半から八時半の間に教える事になります。しかしすべての授業をその時間に取り決める事は出来ません。ですから、教師は自分と自分の生徒との間で互いに受け入れられそうな他の様々な時間に、聖書の授業を教えるとしても、尤もな事です。

B 教師がトレーニングを終えたら、あなたは教会の「家庭聖書研究ミニストリー」の役をになう者として、その指導者の下で働く事が期待されます。

1 それは毎週その指導者との接触を持つ事です。あなたが誰に教えており、どこでその授業をしており、どんな結果を持ち、いつ新しい生徒が必要か、などを指導者が知る為です。

2 ある場合には、これは新しいトレーニングの課程が企画された時、その場に来るあたらしい生徒の為に、教師として仕える事を意味するかもしれません。

3 時には家庭聖書研究ミニストリーの職員全員の合同会議があるでしょう。あなたは可能ならこれらの会議に参加する事が期待されます。それは毎月程ではないにしても、年三回以下という事はないでしょう。通常二カ月毎になるでしょう。

IV 次に聖書の基本的諸真理のトレーニングは四段階のものからなり、終了まで約六カ月かかる、という事を説明して下さい。

A 第一段階のトレーニング

1 第一段階は一時間の教室の授業が九つです。

2 これは実際の内容としては一時間の授業を六つ、徹底的に教える事です。

B 第二段階のトレーニング

1 これもまた教室での活動です。少なくとも六週、多くても十二週で終わるでしょう。与えられた生徒に対する手始めと可能な時間に依ります。

2 この時点で、各生徒は一緒になった生徒に授業を教えます。もし生徒たちがこの段階でのトレーニングで週二時間捧げられれば、六週間で終わります。各週一時間しか捧げられなければ、この段階は終えるのに十二週かかります。

もしこの段階で生徒たちが二時間捧げられれば、教室で出会い、ナンバー1の生徒

は、最初の授業をナンバー 2 の生徒に教えます。ナンバー 1 の生徒が終わるとすぐナンバー 2 の生徒が次に彼（ナンバー 1 の生徒）に、最初の授業を教えます。次の週はナンバー 2 の生徒が最初に教え、そのようにして六週の間前後を交替します。もし生徒がこの段階で週一時間しか捧げられなければ、最初の週にナンバー 1 の生徒がナンバー 2 の生徒に第一課を教えます。次週にはナンバー 2 の生徒がナンバー 1 の生徒に第一課を教えます。第三週はナンバー 2 の生徒がナンバー 1 の生徒に第二課を教えます。こうして彼らは十二週の終わりまでこの順序に従います。

3 ミニストリーの指導者はこの段階のトレーニングを指導します。

C 第三段階のトレーニング

- 1 この時点では、各生徒は経験ある教師に割り当てられます。
- 2 生徒は教師と共に行き、教師が実際に「現場」において課程をうち立てるのを見守ります。それから生徒は沈黙のパートナーとして、教師がその課程を教える時、同伴します。この段階では生徒が沈黙のパートナーである事が絶対必要です。未経験の生徒からの意見は、実際生活の状況において、一つの課程の成功をかなり危険なものにしてしまう可能性があります。
- 3 家庭への途上と帰りに、生徒と教師は教える事、教えるテクニックなどを討議する事が出来ます。これは生徒には大変役に立つ可能性があります。

D 第四段階のトレーニング

- 1 この段階を通じ、生徒は引き続き割り当てられた教師と共にいます。
- 2 この時点で生徒と教師は一緒に出て行って、生徒が「現場」で誰かと聖書の授業をうち立てます。教師は後援の役割を引き受けます。教師が沈黙のパートナーとして生徒と共に行くのです。家庭への途上と帰りに、教師は生徒をコーチする事が出来ます。教師はまた生徒が何らかの困難に陥った場合も考えてそこに居る訳です。
- 3 この段階は一度は繰り返すべきでしょう。特に組み立てのところで。私は繰り返す必要のある場合には、教師は生徒と共に行き、生徒が授業をうち立てるのを助けます。そしてそれから生徒を行かせ、教師なしに自分で実際の教えるをさせるのです。この時点までに、たいていの生徒は教えるが出来るようになります。うち立てる事が生徒にはやっかいなのです。

4 これは勿論の事ですが、第四段階のトレーニングの終了した時、生徒は教会の家庭
聖書研究ミニストリーの資格ある会員となり、そのような者として活動し始めるの
です。

V次に、第一段階のトレーニングで、正確にはどんな事が起き、何が期待されているのか
を説明して下さい。

A最初に各生徒が別の生徒と組む事、そして第二段階の終わりまで一緒に働く事を説明
して下さい。

1 生徒たちはたぶん誰か自分たちのよく知らない人と組むだろうという事を説明して
下さい。これは自分たちの知らない人々との出会いという、彼らのおそれの克服に
手始めとして役立つのです。

2 各生徒は週毎に相手の覚えた仕事ぶりを聞き、その進展の報告の用紙を検討する事
になる、と説明して下さい。

Bそれから、各週の学習資料が各生徒に与えられる、と説明して下さい。

1 それは来るべき授業の主題、意図と適用からなります。またその授業と結びつく、
五つの暗唱節を含みます。それにその授業の為の授業計画概略が付きまします。

2 各生徒はその主題、意図と適用、五つの暗唱節のうちの三つ、そしてきたるべき授
業のローマ字の見出しを覚えておく事が期待されます。さらにそれらを次週の会合
で自分と組んでいる生徒に話す事もです。

C第一段階のトレーニングの一時間の授業を九つ説明して下さい。

1 各時間は二つの部分に分けられます。例外は八番目のと九番目です。最初の授業は
十五分の長さです。その時間の間に組んだ生徒たちは互いに相手に対し、覚えた仕
事を唱えさせ、進展報告用紙の適当な囲みに印をつけるべきです。

第二の授業は四十五分の長さです。この授業の間にあなたの教師はあなたに、六つ
の授業のそれぞれをいかに教えるか、逐一教えてゆくのです。あなたには自分自身
の研究とノートの為、各授業の完全な、印刷されたコピーが与えられます。それ
はあとであなたが実際に他人に授業を教える時、大変役に立ちます。

2 第一段階の九つの一時間授業は次のように配列されます。

a 第一：この章に入れてある進路指導。

b 第二：暗記の作業と第一課の教え方。

c 第三：暗記の作業と第二課の教え方。

d 第四：試験、暗記の作業と第三課の教え方。

e 第五：暗記の作業と第四課の教え方。

f 第六：試験、暗記の作業と第五課の教え方。

g 第七：暗記の作業と第六課の教え方。

h 第八：教育技術。

i 第九：最終試験。

D 今、第一段階のトレーニングには三つの試験がある事を説明して下さい。

1 最初の試験は第四授業の始めにあります。各生徒は最初の二つの課の主題、意図と適用を書き記すよう、要求されます。また第一課と第二課から、十個ほどの可能な暗唱節のうち、どれか三つを書き記すよう、要求されます。さらに第一課と二課の主要なローマ数字の視点を、正しい順序で書き記すよう、要求されます。

2 第二番目の試験は第六授業の始めにあります。各生徒は第三課と第四課の主題、意図と適用を書き記すよう、要求されます。また第三課と四課から、十個ほどの可能な暗唱節のうち、どれか三つを書き記すよう、要求されます。さらに第三課と四課の主要なローマ数字の視点を、正しい順序で書き記すよう、要求されます。

3 第三番目にして最終の試験は第九授業の間にあります。各生徒は第五課と第六課の主題、意図と適用を書き記すよう、要求されます。また第五課と六課を併せ、可能な十個の暗唱節のうち、三つを書き記すよう、要求されます。さらに第五課と六課の主要なローマ数字の視点を、正しい順序で書き記すよう、要求されます。また助けとなる自分のノートを用いて、図表を組み立てるよう、要求されます。

VI このトレーニングの授業を、次の事をもって締めくくりなさい。

A 次週の為に、研究用紙を渡して下さい。

B 上記の研究目的の為に、生徒を二人ずつ組にしなさい。